令和元年１０月１５日
京都市立朱雀第七小学校
校長　鵜飼　洋子

平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果
★教科に関する調査の結果★

４月１８日に，本校６年生４０名を対象に実施された「全国学力調査」について，結果がまとまりました。教科に関する調査問題としては，今年度よりＡ・Ｂの区分がなくなり，国語・算数の２教科の調査が行われました。合わせて，家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており，生活習慣と学力との関係等，本校の子ども達の状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

すべてにおいて**全国平均を上回る結果**となっています。設問別にみても，国語・算数ともにほとんどの設問で，正答率が全国平均を上回っていました。

また，全国的に記述式の問題における正答率が低くなる傾向があるのですが，本校では，**記述式の問題における正答率は，全国平均より高くなっています**。また，無解答率においても全国平均より低くなっています。問題に前向きに取り組んでいる姿がうかがえます。このことは，児童質問紙で「国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり書いたりしていますか。」の問いに対して，「あてはまる」「どちらかといえば，あてはまる」を選んでいる割合が全国を上回っていることとつながります。授業の中で，意図的に自分の思いや考えを書く活動を多く位置付けることにより，書くことへの抵抗を少なくしていくよう，今後も取り組んでいきたいと思います。

国　語　科　よ　り

ほとんどすべての設問で全国平均を上回っています。設問１四では，報告する文章中の言葉を，**漢字を使って書き直す問題**となっています。３問出題されていて，すべて正答率が全国平均を上回っています。しかし，正答率としては，他の設問と比べ低くなっているものもあります。「調査のたいしょう」「かんしんをもってもらいたい」の問題で正答率が低くなっています。「たいしょう」については，昨年度も低い結果となっていました。どちらも同音異義語である。「対象」と「対照」・「対称」や「関心」と「感心」といった，意味の違いを捉えることができず，文脈の中での使い分けができなかったと考えられます。家庭学習で漢字の練習を取り入れてきていますが，実際自分が文章を読んだり書いたりする時に，十分使いこなせているとは言えません。どの学年でも宿題としている「漢字」についての家庭学習のあり方を見直し，ただ漢字を覚えるだけではなく，日常的に文や文章の中で使うことができるようにすることが重要です。書いた文章を読み返し，文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で，正しく使えているかどうかを自分で評価することができるようにしなければなりません。また，漢字を習得し語彙を広げるためには，国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることも重要です。必要なときにはいつでも辞書が手元にあり，自ら進んで使えるような環境をつくっていきたいと思います。

さらに，**「目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く」**問題（設問１三）において，全国平均は上回っているものの低い正答率となっています。本設問では，「２　調査の内容と結果」の「（１）公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「（２）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の両方から，分かったことについて書く場面を取り上げているが，どちらか片方しか書けていなかったり，分かったこと以外の内容を書いてしまったりする児童が多いことが分かります。本問のような調べたことを報告する文章では，調べた結果から自分がどのような考えをもったかを述べることになります。その際，調べて分かった事実が自分の考えを支える理由や事例となります。より説得力をもって自分の考えを伝えるためには，調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ，自分の考えとの関係を十分に捉えて書くことが重要となります。これに関連する児童質問紙を見ると，「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき，うまく伝わるように理由を示したりするなど，話や文章の組み立てを工夫しているか」の問いに対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んでいる割合が全国をかなり上回っています。このような学習の成果が，さらに確実な力となるように指導していきます。

設問２**「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる」**問題では，全国平均をはるかに上回る結果となっています。楽しむため，調べるためなど，読む目的は様々です。本や文章などを，目的に応じて様々な読み方で読むことができるようにすることが重要です。本校では国語を研究教科として取り上げ，授業の中で常に目的意識をもって読めるように単元を構成し，取り組んでくんできた成果ではないかとうれしく思っています。児童質問紙「読書は好きですか」の問いに対して，90%近くの児童が肯定的に回答していることにもつながっているのではないかと考えます。

一方，**「ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いることができるかどうかをみる」**問題（設問３四）において，全国平均を下回る結果となっています。「習うより慣れよ」ということわざの意味と関連付けて，文の中で適切に使っているものを４つの文例から選ぶ問題です。ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解し，日常生活における表現の中で使うことができるようにすることは，児童の語彙を増やし，表現を豊かにすることにつながります。国語で取り上げる時間が少ないため，その時間だけで終わるのではなく，日常的にことわざや慣用句に触れる機会を意図的に設けたいと思います。自分の表現の中で使ってみる経験をすることで，児童がことわざや慣用句を使うことの効果などについて気付く学習活動などを取り入れる必要があると考えます。

算　数　科　よ　り

ほとんどすべての設問で全国平均を上回っています。特に**記述式の問題形式**において，全国平均を大きく上回る結果を示しています。算数の学習では，言葉や数，式，図，表，グラフなどを用いて，筋道立てて説明することが求められます。児童質問紙に，「算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか。」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という問いがあり，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童が全国平均を大きく上回っています。日々の授業の中で，考え方を説明する学習を取り入れている成果が表れていると考えられます。これからも，問題を解決するために見通しをもち，筋道立てて考え，その考え方や解決方法を説明することができるようにしていきます。

「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかをみる」問題（設問２（４））では，全国平均を上回る結果となっています。また，**「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し，与えられた式の計算に適用することができるかどうかをみる」**問題（設問３（１））においても全国平均を上回る結果となっています。これからも，小学校の間に学習する「整数・小数・分数の四則計算をすること」については，基礎・基本の力として確実に定着できるように，学校や家庭学習で繰り返し学習していくようにします。さらに，計算が確実にできることに加え，計算に関して成り立つ性質を活用することで，計算を能率的にするために工夫することも重要になってきます。

一方，**「図形」の領域**において，全国平均を下回る問題が見られます。「台形について理解しているかどうかをみる」問題（設問１（１）），「図形の性質や構成要素に着目し，図形をずらしたり，回したり，裏返したりすることで，ほかの図形を構成することができるかをみる」問題（設問１（２））です。「図形」領域に弱い傾向は前年度までにも見られました。これら図形の領域においては，図形についての感覚を豊かにし，図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切です。

算数で学んだ知識・理解を，**生活場面や他の教科の学習の中で活用する**ことが求められています。設問４はその一つで，遊園地での待ち時間を考えるという日常生活を問題場面としています。ここでも，全国平均を上回る結果を示しています。児童質問紙に，「算数の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか」という問いがあり，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童が全国平均を大きく上回っています。日常生活の問題の解決のために，問題を解決するための見通しをもったり，多くの情報の中から必要な数量を見いだし，数学的に表現できるようにしたりすることが重要になってきます。これからも，算数的なものの見方・考え方が様々な場面で生かせるように取り組んでいきたいと思います。

ご協力のお願い

各教科における，本校児童の実態につきましては，本調査だけでなく，ジョイントプログラム等に関する分析等も行いながら，より一層の授業改善に努めてまいります。学力は，学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり，望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続きご協力よろしくお願いいたします。

★児童質問紙から見える子どもの様子★

６年生で今春４月に実施した標記調査では，学力調査と同時に学習状況に関する５８項目のアンケートが実施されています。その調査内容は，大きく分類すると次のようになります。

基本的生活習慣など	１～　４
挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感など	５～１６
学習習慣など	１７～２２
地域や社会に関わる活動の状況など	２３～２６
ＩＣＴを活用した学習状況	２７，２８
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	２９～３６
学習に対する興味・関心や授業の理解度など（国語）	３７～４５
学習に対する興味・関心や授業の理解度など（算数）	４６～５６
各教科の調査時間の適切性	５７，５８

以下にこの調査から見えてきた本校児童の特徴をお知らせいたします。

「早寝早起き朝ごはん」は，生活リズムの基本です

○**「毎日朝食を食べている」**児童の割合が，「している」92.5%，「どちらかといえばしている」5.0%で，合わせると 97.5%という結果で，全国平均を上回っています。

○**「毎日同じくらいの時刻に寝ている」**児童の割合が，「している」40.0%，「どちらかといえばしている」50.0%で，全国平均を上回っています。

○**「毎日同じくらいの時刻に起きている」**児童の割合が，「している」67.5%，「どちらかといえばしている」27.5%で，全国平均を上回っています。

⇒生活習慣の基本である「早寝早起き朝ごはん」については，家庭でていねいに見ていただいていることがうかがえます。ゴールデンウイーク明け・夏休み明けに行った生活リズム調べでは，就寝時刻や起床時刻が遅くなっている児童がいるという実態も見られます。もう一度家庭で確認ください。ゆとりをもって起床できるようにし，**バランスの良い朝ご飯**が食べられるようにしてください。このことが，その日の学校生活に大きく影響することになるでしょう。

挑戦する気持ちや達成感が，子どもの意欲を高めます

○**「ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある」**児童の割合が，「当てはまる」82.5%，「どちらかといえば当てはまる」15.0%で，全国平均を上回っています。

○**「難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦している」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，87.5%で，全国平均 79.0%を大きく上回っています。

○**「自分には，よいところがあると思う」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，80.0%で，全国平均 81.2%よりやや低くなっています。

⇒**自尊感情の高い子ども**が多いことが伺えます。成長するためにはとても大切なことです。ものごとを最後までやりとげた達成感や難しいことに挑戦した経験が，子どもの自信につながります。学習や学校の様々な取組を通して，子どもたちが自己有用感を高めることができるように，意欲的に活動する場や主体的に学ぶ場を工夫していきます。ご家庭でもお子様の良いところは意識的にほめる等の工夫をしてください。

家庭学習や読書をする子は学力の伸びが違います！

○**「１日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」**という設問に対して，本校は毎年二極化の傾向が

見られました。しかし，今年度は，１時間以上勉強しているとする児童は全国平均をはるかに上回っていて，「３０分より少ない」「まったくしない」と回答している児童が非常に少なくなっています。**「自分で計画を立てて勉強しているか。」**という設問に対しても，「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童が 70.0%に達しています。また，この２つの設問に対して肯定的な回答をしている児童は，「国語」「算数」の正答率も高くなっています。

⇒家庭で進んで勉強できる子とそうでない子との差が見られるという現状を打開するために，学校としては**「家庭学習の手引き」を作成し**，家庭学習の大切さを伝えるとともに，主体的に行う学習のヒントを示してきました。今年度の６年生が肯定的な方向になっていることはうれしい限りです。引き続きご家庭におかれましては，生活習慣の中に発達段階に応じた学習時間を位置づける等のご配慮をお願いします。

○**「１日当たりどれくらいの時間，読書しますか」**という設問に対しても，30 分以上と答えている児童が 60.0%で，全国平均 39.8%よりはるかに上回っています。全く読まない児童が 0%と，全国平均 18.7%と極端に少なくなっています。**「学校図書館や地域の図書館に行きますか」**という設問に対してあまり行かない児童は少なくなってきています。

⇒「読書が好き・どちらかといえば好き」と答えている児童が 87.5%を占めています。しかし，学校図書館に足を運ぶ児童はそう多くはありません。学校図書館では，子どもが本を手にしやすいようにテーマを決めて本を並べるなどの工夫をしています。また，国語の学習においても，教科書に載っているお話を読むだけで終わるのではなく，関連のある本を並行読書する学習を行ってきています。自分のニーズに合わせて本を手にすることで，本を読む楽しさや価値を実感できるように取り組んでいきたいと思います。

学校は公の場　ルールを守れる子どもに！

○**「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 100%という結果でした。**「人が困っているときは，進んで助けている」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 97.5%という結果でした。

⇒いじめは許されないということを，これからも伝え続けていきたいと思います。人を大切にする気持ち，もちろん自分も大切にする気持ちを持ち続けてほしいと思います。

地域や社会に目を向けられる子どもに！

○**地域や社会とのつながり**に関しては，地域行事に参加する児童生徒が多い傾向にあります。昨年度までは，社会に関するニュースに関心のある児童が少なく，新聞を読む率も低くなっていましたが，今年度は**「新聞を読んでいる」**という設問に対して，読んでいると答えた児童の割合が 60.0%に達しています。また，**「地域や社会をよくするために，何をすべきか考える」**児童や**「日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」**児童の割合が，全国平均と比べて高くなっています。

⇒地域行事に単に参加するのではなく，要員として役割を担わせるなどの社会貢献をさせていただけたら幸いです。ますます地域とのつながりが強くなるでしょう。３年生以上の総合的な学習の時間には，課題をもって学習することを通して，様々な事象に主体的に関わり考える学習を行っています。